



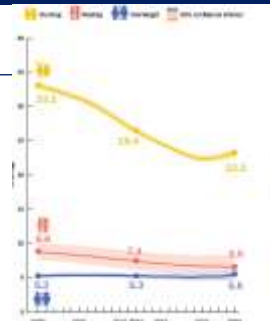
NAM ニュース



今回のテーマ

栄養改善と持続的開発目標(SDG)

発育阻害、消耗症、過体重、低体重の指標は、持続可能な開発目標(SDG)ターゲット2.2に関する栄養不良の規模とパターンを示すもので、ユニセフ、WHO、世界銀行による合同グループは、各指標の割合と人数に関する世界および地域別の推計値を隔年で更新しています。昨年公開された報告では、2025年の世界保健総会(WHA)の目標とSDG目標2.2の達成に向けた進捗が不十分であることが明らかとなりました。特に、発育阻害の過去10年間続いた減少傾向が停滞し、増加に転じているを示しています。



ウガンダNILEプロジェクト



JICA草の根パートナーの支援により開始した「西ナイル栄養生計改善(NILE)プロジェクト」実施は、ケアグループを通じた母親に対する栄養教育とコミュニティ住民の啓発のほか、昨年始めた45の

預金グループのなかで活動が活発で意欲のある15グループが食材販売や養鶏などの小規模の収入向上活動をはじめました。地域で栽培可能な栄養価の高い作物の「コミュニティ展示農場」で収穫されたビタミンAを豊富に含むサツマイモや鉄分を多く含む豆は受益者に配布されました。こうした活動を通して、母親や家族が栄養価の高い食材と栄養の関係の知識や意識を高めるだけでなく、家庭の周辺やコミュニティのなかで栄養価の高い作物が手に入りやすい環境づくりをすすめています。2026年1月にはエンドライン調査を行いました。この調査から、栄養教育な啓発によってベースラインからの行動や知識が改善されたかだけでなく、生計や農業支援の有無が行動変容に及ぼす影響を調べる予定です。

研修ワークショップ

EJEP「病院管理・保健システム研修」は、昨年12月に引き続き2回目の実施(6月5日)となりました。エジプト人医師・病院管理者10名の参加者は、PD概念と実施方法を学んだあと2グループに分かれて、「緊急病棟の混雑」と「看護師の欠勤率の高さ」の問題に対するPDの応用を話し合いました。



九州の聖マリア病院で実施したワークショップは、アジア・アフリカからのJICA課題別研修「病院経営」の参加者を対象に計3回行いました。こちらでは、「病院内の医療廃棄物の管理の不備」と「手術後の感染症」といった問題を設定し、これに対するPD応用を話し合いました。

栄養調査

NAMは2025年11月に持続可能な栄養サービスの強化(SSNR)プロジェクトの評価を行いました。このプロジェクトはUKAID資金で、栄養サービスの不足に起因する母子、乳児、5歳未満児の死亡率を減らすことを目的とし、International Rescue Committee (IRC)がローカルNGであるのGREENCODEと提携してボルノ州マイドゥグリ、ジェレ、モンゴノ地方自治体で実施した事業です。



出前授業(国際理解教育)



昨年は東京都、大阪府、愛知県、茨城県、滋賀県、栃木県、沖縄県の小中高の学校で合計11回の出前授業を行うことができました。こどもたちからは、「命のテープ(MUAC)で自分の親指くらいの細さの子どもがいることに驚きました」、「残さず食べるようにしたい」といった感想が寄せられました。

ウェビナー開催

2026年1月21日、地域密着型のコミュニティベース栄養改善に関心を持つ人を対象に、ウェビナー「アジア・アフリカにおけるコミュニティベースの栄養アプローチ」を開催しました。NAMが最近評価に参加した3か国(ウガンダ、アフガニスタン、ナイジェリア)の事業経験を共有することを通して、多様な環境下でのコミュニティ栄養改善対策の重要性と実践的知識を高め、また参加者と現地団体のネットワークを促進することを目的としたものです。

事例研究

NILEプロジェクト開始時に実施したベースライン調査の結果をもとにまとめた論文が、「Food Science & Nutrition」誌の3月23日付で掲載されました。

今後の計画

ウガンダでNILEプロジェクトは活動の継続をしながら、エンドライン調査結果をもとに評価文書の取り纏め、関係者への共有会議をや事業から得られた知見・教訓の事例研究を進めます。また、研修や栄養調査、出前授業をより積極的に多くの学校で実施する予定です。